

1. 題材名

「14歳の主張 ～心のイメージを形に～」(全8時間)

「A表現」(1)ア(ア)(2)ア(ア) 「B鑑賞」(1)ア(ア) [共通事項]

2. 題材について

(1) 生徒の実態

2学年は、全体的に明るく活発で、学習や行事に真剣に取り組む生徒が多い。美術科の学習でも、課題の内容や方法を理解して熱心に取り組む姿が見られ、授業の制作を楽しみにしている生徒も多く見られる。

表現の学習では、設定されたテーマを理解し、材料や用具を工夫して用いながら取り組むことができる。これまでの学習では、新聞紙を芯材としてマスコットキャラクターを立体的に制作する活動や、自分の思いを体のプロポーションや一瞬の動きで表現し立体的に制作する活動などを通して、形を単純化したり強調したりして構成することや材料の特徴に注目して、作品に表してきた。

鑑賞では、作品について色や形などの特徴や感じ方を考えながら、自分の言葉で記述したり、仲間の意見に興味を持って聞いたりすることができる。このような実態をふまえ、試行錯誤を繰り返しながらよりよい表現を追究する態度を身につけさせたいと考えている。

(2) 題材観

本題材は、今まで自分が経験してきた出来事を振り返り、その中で得た考えや思いを主題として、形を発想、構想し、抽象形の立体作品として表現するものである。それらの過程を通して、抽象表現に親しみ、抽象表現を行う意義について考えさせる機会としたい。これまで生活してきた社会の中で、生徒自身が考えたり感じたりしたことをテーマとして設定することで、主題について主体的に生み出すことができると考える。素材は画用紙や工作用紙の他に、段ボールやスチロール、アルミホイルなど多様な材質のものを選択できるようにする。これによって主題に迫るための多様な表現が可能となり、試行錯誤しながら自分のイメージにより近づけることができる。

(3) 指導観

題材の導入では、抽象表現の作品を鑑賞し、様々な表現の工夫に触れ、作品に対する見方や感じ方を深める。最初に鑑賞の機会を設定することで、様々な表現の工夫に触れ、イメージを膨らませるきっかけとしたい。次に、自分の経験を振り返り、自分の持つ考えや思いを書き出す。そして、それらを主題とし、色や形、材質などを工夫して表現する。

指導にあたっては、今、自分が取り組んでいることやそのとき感じたり考えたりしていることに注目できるように、ワークシートを工夫する。また、表わしたいイメージを表現できるように、試行錯誤する時間を十分に確保する。さらに、多様な感じ方に触れることができるように、相互鑑賞の機会を設定する。

3. 全体研究と関わって

全体研究では、昨年度から「創造性に富んだ、未来を切り拓く生徒の育成～『主体的な学び』のプロセスモデル実現を目指して～」という主題の基、研究を進めている。

これを受けて美術科では、次のような生徒を目指したいと考える。ひとつは、身の回りの形や色彩などの働きに気付いたり、よさや美しさを感じ取ったりすることができるような、造形的な視点をもった生徒である。もうひとつは、造形的な視点を基にどのような考え方で思考するかを生徒自身が理解し、学習を調整しながら課題解決に向けて主体的に取り組むことができる生徒である。

そのために、題材の指導計画を見直し、造形的な見方・考え方を軸にして、育む資質・能力を明らかにすることとする。また、造形的な見方・考え方を働かせた学びによって育成された資質・能力を見取ることができるような手だてを工夫することとし、今年度は、問いをもつことのできる題材の構成と、それを支えるワークシートと生徒への働きかけに重点を置いて取り組む。

4. 学習指導要領上の位置づけ

「A 表現」

- (1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。
- ア 感じとったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- (ア) 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。
- (2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。
- ア 発想や構想したことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- (ア) 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。

「B 鑑賞」

- (1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。
- ア 美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- (ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。
- イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- (ア) 身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎと自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。

〔共通事項〕

- (1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること
- イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

5. 題材の目標及び題材の評価規準

(1) 題材の目標

自分の経験を通して持った考えを基に主題を生み出し、形や色を発想、構想し、抽象表現の立体作品で表現することができる。

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色彩、材料などの性質、それらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p>	<p>発 経験を通して感じた思いや考えたことなどを基に主題を生み出し、単純化や強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。</p>	<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わいたいイメージを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。</p>
<p>技 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を創意工夫し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表している。</p>	<p>鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に作品や美術文化などの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

6. 題材の指導計画（全8時間）

時間	学習内容	観点別評価		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	抽象表現による作品を鑑賞し、表現方法や感じ方に注目する。		鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図について考えるなどして、見方や感じ方を深めている。（活動観察・ワークシート）	態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に抽象表現の作品の鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（活動観察・ワークシート）
2	自分が表現したいことを基に、抽象表現による作品について構想する。材料の特徴を活かして形や色を工夫し、表現するための形を構想する。		発 経験を通して感じた思いや考えたことなどを基に主題を生み出し、単純化や強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。（ワークシート・活動観察）	態表 美術の創造活動の喜びを味わい表したいイメージを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。（活動観察・ワークシート）
3				
4	感じ方を考えながら、材料を組み合わせ、表したい思いを構成する。	知 形や色彩、材料などの性質、それらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。（活動観察） 技 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を創意工夫し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表している。（活動観察）		
5				
6				
7				
8	制作した作品について振り返る。		鑑 仲間の作品を鑑賞し、表現の工夫を感じとるなどして、見方や感じ方を深めている。（鑑賞シート）	態鑑 主体的に鑑賞活動に取り組み、よさや工夫を見つけようとしている。（鑑賞シート）

※全8時間中、1時間目を導入、2時間目および3,4,5,6,7時間目を展開、8時間目をまとめとする。

7. 本時の授業

- (1) 日 時 令和3年10月20日(水)
 (2) 対 象 2年2組生徒 男子 18名, 女子 17名 計35名
 (3) ねらい

- ・抽象表現による作品の鑑賞の学習活動へ主体的に取り組むことができる。(主体的に学習に取り組む態度)
- ・作品の鑑賞を通して、抽象的な表現のよさについて見方や感じ方を深めることができる。(思考・判断・表現)

- (4) 展開 (1/8)

時間	○学習活動 ・活動の内容, 指導のポイント	評価			指導上の留意点
		知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習に 取り組む態度	
導入 5分	○題材の学習内容について知る ・自分の経験から得た考えや思いについて、幾何学的な形や色を用いて表現する。 ○本時のねらいを知る。 ・抽象表現の作品を鑑賞し、抽象表現のよさについて考える。			○	・本時の学習内容やねらいについて簡潔に伝え、生徒が理解して取り組むことができるようにする。
展開 40分	○抽象表現のイメージを確認する。(5分) ➤ マーク・ロスコ 《「壁画 No.4」のためのスケッチ》 【発問】抽象美術にどのようなイメージを持っているだろうか。 ○抽象表現による作品を鑑賞する。(25分) ➤ 岡本太郎《樹人》 ➤ フランク・ステラ《リュネヴィル》 【発問】作品を見て、どんなことを感じるだろう。また、そのように感じるのはなぜだろう。 ○ワークシートにまとめた考えを発表させ共有する。(10分) ・色や形から感じたイメージを基に作品について考えたことを確認する。 【発問】抽象で表現することには、どんな意味があるだろう。 ・抽象的な表現では、自分の感覚を通して、形や色、質感などから感じることにそのものが重要であることを伝える。	○	○ ◎ ○	○ ○ ○	・感じたことや考えたことをなるべく具体的に言語化させる。
まとめ 5分	○まとめ ・振り返りシートを用いて学習を振り返る。			○	・鑑賞を通して考えたことや気づいたことなどについて全体で共有できるようにする。

- (1) 日 時 令和3年10月27日(水)
 (2) 対 象 2年2組生徒 男子 18名, 女子 17名 計35名
 (3) ねらい

・自分の経験から得た考えや思いを基に、形や色に宿るイメージを用いて抽象表現として構成することができる。(思考・判断・表現)

(4) 展開 (2/8)

時間	○学習活動 ・活動の内容, 指導のポイント	評価			指導上の留意点
		知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習に 取り組む態度	
導入 5分	○本時の学習内容について知る ・自分の経験から得た考えや思いについて、形や色を用いて表現する。 ○本時のねらいを知る。 ・形や色に宿るイメージを用いて、考えや思いを抽象によって表現する。	○			・本時の学習内容やねらいについて簡潔に伝え、生徒が理解して取り組むことができるようにする ・前時の振り返りを行い、表現のポイントを意識させる。
展開 40分	○思いや考えを表現するための形について考える。 ・感情を表すオノマトペを参考に、感情を表すのにふさわしいと感じた形を描き出す。	○	○		・表現の幅が狭くならないように、絵文字や記号を用いず表現することを伝える。
	○「心の声」をテーマとして、自分の経験を振り返り、表現したい思いや考えの構想を練る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">【発問】自分の「心の声」を託すのにふさわしい形や色はどんなものだろう。</div>	○	◎	○	・自分の経験から具体化しながら、表現したい思いや考えについて考えることを伝える。 ・形や色などに意味を持たせた表現することを伝える。最終的には立体作品としての配置も考慮することを確認する。 ・机間指導の際に、表現したい思いや工夫したい点についてやりとりを行って思考を深めるようにする。
	・自分の「心の声」にふさわしい形を考え、クロッキー帳に描き出す。	○	○	○	
まとめ 5分	○まとめ ・振り返りシートを用いて学習を振り返る。			○	・表現する中で考えたことや気づいたことなどについて全体で共有できるようにする